

二〇二一年四月一日立教大学チャペルにて、立教小学校第十二代校長を拝命した、田代 正行と申します。

校長としては新米ですが、立教小学校に奉職して今年で三十九年目となります。古米、古々米、多少虫が食ったような人間ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

前任の佐々木正校長は、月曜朝礼時に子どもたちにお話ししたことをもとに「校長室だより」を出しておりました。私もそれに倣ってお便りを出そうと思いましたがなにせ浅学非才の身。子どもたち向けの講話を文章にできるような自信もないですし、実のある文章も書けそうにないので、題名は「校長のたわごと」にしようかと思いました。でも、たわごとを聞いてくださるような方はおられないだろうし、「校長のひとり言」としても、電車やバスで独り言を話している方には近づきがたいし・・・結局「校長のつぶやき」といたしました。

つぶやくは、漢字で「呟く」と書きます。この「呟」という字、「たぶらかす」とか、「曖昧な言葉で誘う」という意味もあるのだそうです。皆様方をたぶらかすつもりは毛頭

ございませんが、曖昧なことをブツブツ申し上げるイメージには近いかもしれません。どうぞ肩肘張らず、いい・加減なお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、四月一日に西原廉太立教大学新総長から、「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」が公表されました。内容の詳細については、大学のホームページでご確認いただけると思います。その前文に、創設者ウィリアムズ主教は、「立教を『キリスト教に基づく真の人間教育おこなう場』と位置づけ、それ以来、一貫して、一人ひとりの『人間の尊厳』を大切にし、他者の痛みに敏感に共感できる者たちを生み育てることを、『建学の精神』の根幹としてきました。」と、あります。

四月七日の立教小学校第七十四回入学礼拝の折に、立教小学校に入学したからには、人の痛みに分かる人間に成長してほしいこと。そのためには、保護者の方々のご協力が何よりも大切であることをお話しさせていただきました。

子どもたちは親御さんの後ろ姿を見て育ちます。保護者の方が一年生の送り迎えをしてくださるこの四月を、「立教魂」刷り込み月間として、保護者同士のコミュニケーション

も大切ですが、いつときのかりそめのそれ自身をやつすのか、一生モノの「立教魂」をお子様刷り込むのか、どちらが有益なのかお考えくださいともお伝えしました。

「立教魂」刷り込み月間中、一年生のみならず、他学年の児童の心無い行為、たまげ（びつくりする）漢字ではなんと、魂消ると書きます。）のような行為に遭遇した際は、どうぞ、こうおっしゃってください。（二年生以上の保護者の皆様も是非ともご協力のほどを。）

「私自身はあなたに、何の恨みもないのだが、立教ファミリーの一員として、あなたの心無い行為を見逃すことはプライドが許しません。だから仕方なく、本当はやりたくないのだけれど、断固注意します！」と。

大変な学校に入学してしまったと、今更ながら後悔している方。そんな方がいらっしやらないといいのですが…。

立教ファミリーへようこそ！

